



＜教育目標＞

- 思いやりのある子ども
- 進んでやりぬく子ども
- じょうぶな子ども
- よく考える子ども

平成30年6月1日(金)
練馬区立豊玉第二小学校
校長 永井 美奈子

豊二小だより

6月号

自己肯定感を育む

校長 永井 美奈子

雨に映える紫陽花が色鮮やかに咲く季節となりました。学校の正門付近に咲く紫陽花も日に日に色濃く変化し、見る人を楽しませてくれます。4月から2か月近く続いた集団登校も5月末日で終了し、6月から各自で登校するようになりました。子供たちには、道路の安全な歩行や登校時間を守ることなど、引き続き学校でも指導いたしますので、各御家庭でもお話しください。



来校者を優しく迎える正門付近の紫陽花



「はい」「はいー」と意欲的な1年生の授業風景

さて、1学期の折り返しの時期を迎え、各学年の教育活動も順調に進んでいます。これまで私は、可能な限り校舎内を回りながら教室の様子を観察してきました。一人でじっと思考を凝らしノートに黙々と考えを書き連ねている子、自分の考えを積極的に発言する子、友達の発言を頷きながら真剣に聞いている子、ペアトークやグループで意見を交流し考えを深め合っている子。様々な学習活動の場面を通して、学ぶ意欲に溢れた多くの子供たちの姿を見ることができました。



グループで学び合う6年生児童

子供たちの学習意欲の高さは、自己肯定感の高さにもつながると言われています。自己肯定感が高い子供は、自分に自信があり、失敗を恐れず何事に対しても積極的に取り組むことができます。そして、多様な体験を通して、更に自信をつけるようになります。また、自分をありのままに受け入れることができるとともに、他者を認め思いやりの気持ちをもって接することができるとも言われています。

学校では、子供たちの自己肯定感を育むために、子供自らが課題を見付けたり、一人一人に合った目標を設定したりして挑戦させ、できた経験を積み重ねるような指導の工夫に努めています。その際教師は、自信を引き出すように子供を励まし、目標が達成できた時には大いに褒めるようにしています。このような小さな達成感の積み重ねが子供たちの自信となり、自己肯定感に結びつくと考えます。

6月以降は、6年生の軽井沢移動教室を皮切りに、コスモス学級の岩井宿泊学習、5年生の岩井移動教室等の宿泊を伴う行事や社会科見学などの校外学習が続きます。日常の学校生活とは違う場で、子供たちが友達や様々な人とかかわりながら豊かな体験ができる貴重な機会です。友達と協力し合いながら、自分たちで考え生活する体験を通して、また一回り大きく成長することを願っています。